

# 福山港内港における 再生資源による干潟づくり

申請者



## プロジェクトの概要

- かつての福山港内港は、下水の影響等により生じたヘドロが海底に堆積し、スカムと呼ばれるヘドロの浮遊現象や悪臭が生じるほど環境が悪化していました。
- 環境改善のため、2010～2013年度に底質改善実証試験が行われ、2014～2016年度に広島県により底質改善事業が行われました。
- 底質改善は、再生資源(石炭灰造粒物および鉄鋼スラグ)を用いた覆砂を実施し、干潟を創出しました。
- 施工後の維持管理については、広島県、福山市、中国電力(株)、JFEスチール(株)により継続して状況確認を行っており、広島大学は施工前後の現地状況について調査研究を行っています。
- 2021年度から干潟におけるCO<sub>2</sub>吸収能力を評価するための事前活動、2023年度から調査に取り組み、CO<sub>2</sub>吸収機能の維持・拡大も目的としています。
- 引き続きモニタリングおよび必要に応じた対策や普及啓発活動を実施します。



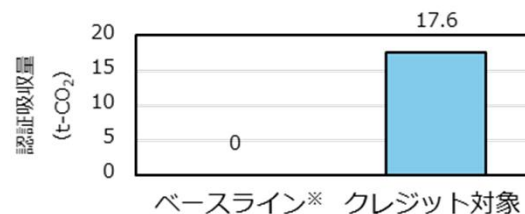
使用した再生資源（石炭灰造粒物）



使用した再生資源（鉄鋼スラグ）

## プロジェクトの特徴・PR

- 再生資材を用いた覆砂による底質改善実施後のモニタリングにより、スカムの発生や悪臭の大幅な改善が確認されました。
- 施工前には生き物が全く確認されませんでした。現在では環境の改善によりチヌやハゼ、ボラ等の魚類、ウミウシ等の底生生物、サギ類等の鳥類の飛来など様々な生き物が確認されています。
- 干潟部ではクロロフィルaが多く、微細藻類が豊富に確認されています。
- **本クレジットのCO<sub>2</sub>吸収量は、17.6t-CO<sub>2</sub>と認証されました。**



※施工前には干潟がなかったため  
ベースラインは0t-CO<sub>2</sub>として扱った



飛来したサギ類



干潟部に繁茂する微細藻類



事業実施前



事業実施後